

野生鳥獣の病原体保有状況調査の結果について

平成 23～25 年度厚生労働科学研究「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究（研究代表者：高井伸二）」において実施された野生鳥獣の病原体保有状況調査について、主要な結果は以下のとおりであった。

【イノシシ及びシカ】

1. 細菌

- ・ イノシシ及びシカ計 295 検体の糞便を検査したところ、サルモネラはイノシシ、シカでそれぞれ 1 例陽性となった。赤痢菌、カンピロバクターについては検出されなかった。
- ・ また、VT 遺伝子陽性の病原性大腸菌が 10 例検出された。
- ・ イノシシ 52 頭の 12 頭、シカ 61 頭の 2 頭の腎臓からレプトスピラ遺伝子を検出した。

2. 寄生虫

- ・ 糞便からの寄生虫卵の検出率は全国で 50% と高率で、鞭虫卵、回虫卵、鉤虫卵等が見られた。
- ・ 病理検索でも寄生虫感染に起因する病変が多く見られた。全身の筋肉内から住肉胞子虫、肺気管支内から線虫、肝臓から肝蛭を検出。寄生虫体が認められない場合も、寄生虫感染が疑われる好酸球浸潤を伴う炎症性病変が認められた。

3. E 型肝炎ウイルス

(ELISA による抗体保有調査及び遺伝子検出)

- ・ イノシシについては、184 頭中 47 頭が抗体陽性、112 頭中 5 頭から遺伝子が検出された。検出された遺伝子は、2011 年のヒトの患者から検出された遺伝子と非常に似ていた。

(上記とは別の抗原を使用した ELISA による抗体保有調査及び遺伝子検出)

- ・ イノシシについては、274 頭中 45 頭で抗体陽性となり、277 頭中 6 頭から遺伝子が検出された。
- ・ シカについては、201 頭中 1 頭から遺伝子が検出された。
- ・ イノシシ及びシカから検出された遺伝子はいずれもヒトの患者から検出された遺伝子に類似していた。

【野生鳥類】

- ・ 狩猟された野生カモ類（狩猟鳥）7 種 58 羽、インターネットによる食用販売を通じて購入した野生カモ類（市販鳥）3 種 41 羽を対象に検査を実施した。
- ・ カンピロバクターについては、狩猟鳥は 1 羽、市販鳥は 3 羽が陽性であった。
- ・ サルモネラは、全て陰性であった。
- ・ トキソプラズマ原虫については、狩猟鳥は陰性、市販鳥は 4 羽が陽性であった。